

ヤリタナゴ

Tanakia lanceolata

種名



分類	コイ科タナゴ亜科アブラボテ属
俗称	ボテ(琵琶湖)、ベンチョコ(福岡県柳川市)、シュブタ(筑後川)
形態的な特徴	タナゴ類の中で体高が低い方に属する。測線は完全で、口角に長い1対の口ひげをもつ。タナゴ類によく見られる肩部の暗色斑はなく、体側後半部の暗色縦条も細く不鮮明である。背びれの条間膜に鱗条に平行した紡錘形の暗色斑がある。産卵期の雄の体側前半部は赤紅色を帯び、えらぶたと胸びれの上方ではそれが特に濃い。また背びれの前上縁と尻びれの縁辺の朱色も濃さを増す。腹面は黒色。吻端の追星は左右に分かれる。短縮時の産卵管は橙色で、やや湾曲する。伸長時でもその長さはタナゴ類の中では短い方で尻びれを越さない。
分布	北海道と南九州を除く各地に分布する。国外では朝鮮半島にも分布する。
繁殖行動	産卵期は3～8月頃である。雄は主にマツカサガイ、ニセマツカサガイに雄を誘導し、雌は貝の出水管に産卵管を瞬間的に挿入して数十粒の紡錘形の卵を産み付ける。受精後70～80時間で孵化するが、他のタナゴ類と同様に孵化直後の仔魚の眼、心臓、血流、色素胞は外部から認められず、運動もほとんどしない。
生息場所	平野部の細流や灌漑用水路などのやや流れのあるところを好むが、湖・池沼の岸辺の沈礁や杭などの周辺にも生息する。
食性	雑食性で付着藻類や小型の底生動物を食う。
生息環境への配慮事項	

引用文献：改訂版 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚を改変